

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
人々を火災から守るための消防士の働き	57.6%
自分たちが通う小学校がある区市町村の位置	28.8%
道具と暮らしの変化の様子と特色	37.3%
伝統や文化の継承、保護、活用	64.4%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
○消防及び伝統文化に関する問題については、正答率が50%を上回っており、半数以上の児童に定着していると考えられる。 ○昨年度の学力調査の結果と比較すると、全体の正答率が大幅に向上している。	○過年度の内容に関する問題について、忘れていた児童が多かった。都道府県や国の位置関係を学習と平行して、既習事項の定着を図る必要がある。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

○過去の学年の学習内容にさかのぼり、 <b>既習事項をスパイラル的に定着</b> させていく時間を確保する。 (基礎基本の定着) ○ <b>資料の正確な読み取り方</b> を、各学年に応じて定着させる。
---

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	○資料を見て事象から原因を推測する力や、仕事の工夫を考える力を身に付けさせる必要がある。 ○西東京市町の様子や人々の仕事、地域の特色などを関連付けて考える力を身に付けさせる必要がある。	○①資料から取り出した情報を整理する、②情報から推測する、という段階的な活動を少人数グループで取り組ませ、協働的な学習で学びを深める。 ○町探検や社会科見学後に写真や資料を使用して地域の様子を振り返らせることで、見学を通して情報を明確化し、理解の定着を図る。
4年生	○資料の読み取りには、他教科との関連があり個人差が大きい。また、読み取ったことからの思考が苦手である。 ○既習事項に立ち返ることができていない。	○資料を読み取る力を高めるために、社会においても辞書を活用したり、算数に立ち戻ったりしながら考えさせる。また、資料から読み取れる事実と分かることを区別して考え、事実から思考を深めることを理解し、繰り返し取り組む。 ○3年時の学習内容について振り返りの時間を確保する。
5年生	○資料の読み取りはおおむねできているが、資料を活用することができていない。 ○用語の理解が不十分である。	○資料から分かる事実とその事実から考察できることを分けて考えさせる。また、課題に対して、どのような資料があれば解決できるかを考えさせる。 ○用語の確認をし、適切に使用できるよう定着させる。
6年生	○資料から事実を読み取ることはできるが、その事実からさらに思考することが苦手な児童が多い。 ○用語の知識はあるが、それぞれの関係性を十分に掴めていないので、考えを書けない児童が多い。	○資料を見るとき視点の明確に提示する。また、資料から読み取れる事実と分かることを区別して考えさせる。 ○キーワードとなる言葉の理解を深め、それぞれの言葉の関係性を考える発問をする。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に学習に対する意欲が高い。</li> <li>○基礎的・基本的な知識はおおむね身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを書ける児童と書けない児童との差がある。</li> <li>○資料を選び、そこから考察することが苦手な児童が多い。</li> </ul>

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○方位、地図記号について理解させ、地図から町の様子を読み取る力を身に付けさせる。</li> <li>○複数の資料を使った学習や、社会科見学や町探検を通して、自分が住む町の様子や働く人々の仕事の工夫などを捉える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○方位と地図記号については、単元学習のみで定着させることは難しいので、定期的に復習の時間を設定し、年間を通して理解の定着を図る。</li> <li>○「社会科見学新聞を作る」といった活動を設定し、学習に対する目的意識をもたせるとともに、資料を読む観点や見学の観点を具体的に提示することで、身に付けた技能を生かして主体的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の安全や郷土につくした人についてなど、学習に対する意欲は高く、進んで自分の気づきを発言したりノートに書いたりすることができる。</li> <li>○資料の読み取りには、算数や国語の力も関わり、個人差が大きい。</li> <li>○思考を深めたり、判断したりすることができる児童は限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートを書く習慣は定着しているので、ペアやグループでの活動を増やし、ノートに思考を深めたり、判断したりする記述ができるようにさせる。</li> <li>○社会においても辞書を活用したり、算数にたちもどったりしながら、資料を読み取る力を付ける。</li> </ul>
5年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象に対する興味・関心は高い。</li> <li>○自ら問いをもち、学習問題をつくり出すこと</li> <li>○資料から適切に読み取ったり、複数の資料を見比べて判断したりする力が弱い。</li> <li>○調べたことを基に考えたことを表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入や資料の提示を工夫し、児童の問いを引き出して学習問題を設定する。</li> <li>○資料の読み取り方を指導するとともに、そこから何を考えるかを問うていく。</li> <li>○事実と考えを区別しながら、工夫して表現する機会を多く設ける。</li> </ul>
6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉は知っているが、それぞれの関係性を十分に掴めていないので、考えを書けない児童が多い。</li> <li>○資料から事実を読み取ることはできるが、その事実からさらに思考することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キーワードとなる言葉の理解を深める。</li> <li>○それぞれの関係性を考える発問をする。</li> <li>○資料から読み取れる事実と分かることを区別して考えさせる。</li> <li>○問題解決的な学習や茶道などの体験学習を積極的に取り入れる。</li> </ul>

●学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から読み取れる<b>事実</b>と、そこから<b>考察できることを区別</b>して考えさせる。</li> <li>○<b>問題解決型学習</b>を定着させ、児童が主体的に学習に取り組む授業を行う。また、課題解決のためにはどの資料が必要かを考える時間を取り、<b>資料選択の力</b>を身につけさせる。</li> <li>○学んだことを自分たちの<b>生活にどのように生かすか</b>考えさせる。</li> </ul>
--